

7 学会・研究会等における成果の公表

(1)日本応用動物昆虫学会

- ・第69回大会（令和7年3月20日～22日：千葉市）
（一般講演）

侵入害虫チュウゴクアミガサハゴロモについて、埼玉県における発生確認および病害虫発生予察特殊報の発表の経緯について説明し、県内における発生地域、県内における農作物被害について述べた。調査の過程で明らかになった本種の加害植物種、産卵習性、予察灯における成虫の発生消長を示し、本種がきわめて広範囲の植物を加害することから農作物に重大な影響を及ぼす可能性についても示唆した。

(2)関東東山病害虫研究会

- ・第71回研究発表会（令和7年3月4日：長野市）
（一般講演）

埼玉県におけるイネカメムシの発生拡大について、予察灯および本田すくい取り虫数を示し、令和5年から令和6年にかけての急拡大を説明。予察灯での誘殺消長から埼玉県において本種は2化性であることを説明、また、出穂時期の異なる水田が近接する地域での発生消長調査結果から、出穂後3週間程度加害し出穂の早い水田から遅い水田へ順次移動することを示した。収穫後の再生株に着生した穂や、イネ科雑草の穂も餌として利用することについても言及した。

(3)その他、病害虫に関する研究会及び検討会

- ・令和6年度「カメムシ類等難防除害虫の発生状況と防除対策に関する検討会」
（令和7年3月13日～14日：東京都北区・対面およびWebによるハイブリッド開催）
（一般講演）

令和6年のイネカメムシ多発生を受け、埼玉県として初めて本格的に取り組んだ越冬調査における知見を報告した。越冬場所として選好されやすい場所の特徴、越冬場所における虫の密度、越冬期間中の生態、これまで知られていなかった行動（土中に潜入、越冬期間中の吸水行動等）について説明を行った。